

みんなの「なんな一の?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)



信毎こども記者ニュース

発行/連絡先

こども記者クラブ(信濃毎日新聞) 〒380-8546 長野市南県町657
TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp

no.77



火山のこと もっと知りたい



煙がくずれて山を下る。熱い火砕流は速くてとつてもきけん

身近な材料で噴火の実験

浅間山や御嶽山など、火山が身近にある長野県。火山の特ちょうや噴火の仕組みを学ぶ、第13回信毎こどもスクール「しんまい火山の学校」が10月25日、北佐久郡御代田町でありました。3人の先生にお話を聞いたり、いっしょに実験をしたり…。いろいろなことを学び、火山のことをもっと知りたくなりました。

おいしい火山じっけん

キッチン火山じっけんの、ココアとれんにゆうにおゆをいれて、じっけんのあとのみました。じっけんはおおきなおにいさんやおねえさんがやるものだとおもっていたけど、

おもしろくてびっくりしました。にゆうよくざいのすいそうのじっけんもおもしろかったです。これから、おふろにはいるときにおもいだしたいとおもいます。



岡野輝里記者 立科町1年

火山への興味増した

ほかが一番心に残ったことは、林信太郎先生のキッチン火山実験です。一つ目は、火山の噴火の仕方について、入浴剤を使用して実験しました。二つ目は、溶岩の流れについて、練乳とココアの粉を使って実験し

ました。三つ目は、火山灰の飛び方について、おふと自転車の空気入れと自転車のゴムを使って実験しました。実験を通して思ったことは、火山について知り、より噴火について興味が増しました。



津金星成記者 佐久市4年

ふんかのようす、わかった

きょうあさま山のじっけんをした。まず水そうのなかにあさま山のもけいをいれます。そのつぎに、コップにえんぴつであなをあけます。そのつぎに、あさま山のもけいから出ているチューブをあなをあけたコップ

のあなにいれます。そしてコップの中ににゆうよくざいをいれます。2しゅるいがありました。1こめは、かるくてうえにあがる。2こめはおもくてしたにいく。どうやってふんかするのかわかりました。



島崎晃太郎記者 軽井沢町1年

3人の先生に質問できた

火山の学校に参加して一番心に残ったことは、林信太郎先生とおこなった火山の実験です。ペットボトルと紙ねんどで作った火山を使った実験では、水そうの中で

噴えんが立ち上る様子などを見ることができてよかったです。林先生をはじめ、3人の先生にいろいろな質問ができたのもよかったです。



神服明生子記者 長野市5年



火山学者で秋田大教授 林信太郎先生 噴火の様子を再現する「キッチン火山実験」をしたよ

じっけん、またやりたい

火山じっけんのなかで、ようがんながれかたを見るじっけんがワクワクしました。まずかみざらにれんにゆうをだします。そのつぎにココアパウダーをれんにゆうが見え

なくなるくらいかかて、そのかみざらをかたむけてながれかたをかんさつしました。たのしくておもしろくて、またきかいたらやりたいです。



岩波理咲記者 松本市1年

火さい流はこわい

ふん火した時の火さい流の話の聞ききました。火さい流は、あつかったり、たくさんおりてくるので、こわいと思いました。もしふん火がおこって、火さい流がおりてき

たら、火さい流の方へは行かないで、急いでにげた方がいいということが分かりました。大ふん火の時は、山から何キロくらいはなれていれば安心してすごせるのか知りたいです。



山田翔太記者 佐久市4年



練乳の上にココアの粉をかけて、お皿をかたむける。溶岩が流れる様子にそっくり



噴石や火山灰に見立てた麩を空気圧で飛ばし、大きなものは手前に小さいものは遠くに飛ばす様子を観察

